１１	海部	あま市立甚目寺小学校	シバ　アヤカ 名前　斯　波　彩　香

分科会番号	１５	分科会名	進路指導・キャリア教育

研究題目

持続可能な社会のつくり手となる児童の育成をめざして

―キャリアパスポートの活用を通して自己の成長を実感する―

研究要項

１　研究のねらい

総務省によれば、英国オックスフォード大学と野村総合研究所の共同研究において、「日本の労働人口の約49%が就いている職業において、機械に代替可能との試算結果を得ている」としており、近い将来これまで当たり前にあった職業がなくなったり新たな職業が生まれたりする可能性があると示唆している。実際私たちの身近なところでも、セルフレジの普及や人工知能を使ったサービスが増えるなど、生活が様変わりしつつあると感じる。このような予測困難な令和を生きる子ども達にとって、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的・汎用的能力の育成がさらに重要になってきている。

昨年度は、例年実施している体験活動を引き続き行ったり、新たな出前授業を設定したりする中で、めあてや振り返りにキャリアパスポートを活用し、身近なものとした。また、キャリアパスポートの活用を通じて、児童が年間の目標をもち、主体的に活動することに対して一定の成果を出すことができた。しかし、体験活動や出前授業の講師やゲストティーチャーとの関わりがその時間のみで終わってしまったり、取り組んできた活動や学びがつながることなく一つ一つの活動として終わったりしてしまうため、自己を見つめたり自分を知ったりする活動に発展しにくいと感じた。キャリアパスポートをより効果的に活用すれば、それぞれの学びがつながり、蓄積してきた学びを振り返ることで自己理解につなげられたのではないかとの課題が残った。また、ESD すごろくの活用の実践では、一年間の流れを掲示したことによって、子ども達が総合的な学習の時間に行う取組や行事に対しての見通しをもち、目的意識をもって活動に取り組むことができたと感じる。しかし、作成された ESD すごろくは、主に掲示物としての役割が中心となっており、児童の学びの主体性を高める活動に生かされていたとはいえない。

今年度は、昨年度までの流れを踏襲しつつ、課題として挙げられたキャリアパスポートの効果的な活用方法と、ESD すごろくの掲示に焦点を当てて研究を進めていく。

２　研究の仮説と方法

(1)　研究目標

研究のねらいをもとにめざす子ども像を以下のように設定した。

①　自己の成長に向けて、常に向上心をもって活動に取り組むことができる子

②　全体的な見通しをもって、主体的に学習にかかわることができる子

(2)　研究の仮説

(仮説１)記録として積み上げたキャリアパスポートを様々な活動の前後で意識的に見返し、学びの蓄積を振り返ることで、自己を見つめキャリア形成につなげるきっかけとなるだろう。

(仮説２)年間の見通しや各教科の学習とのつながりを理解することで、より主体的に学習へ取り組むことができるだろう。

(3)　研究の方法

(仮説１)に対しての手だて

手だて①　各学年の発達段階や年間計画に合わせたキャリアパスポートを作成する。

手だて②　年間の出前授業や体験活動の振り返りを１枚のキャリアパスポートにまとめ、これまでの体験・学習とのつながりを意識させる。

手だて③　キャリアパスポートを通して積み上げた学習の記録や児童の考えを、行事や学習の中で児童自身が見られる機会を意図的に設ける。

(仮説２)に対しての手だて

手だて①　学年ごとのキーワードの追加や変更を含め、ESD カレンダーの見直しを図り、教科横断的な視点で教育課程を作成する。

手だて②　各教科の関連をはっきり示した ESD カレンダーを職員の目に入る場所に掲示したり、ESD すごろくを学年掲示板に掲示したりすることで、児童が自分たちの生活と普段の学習とのつながりを意識し、目の前の学習に取り組めるようにする。

(4)　研究対象

キャリアパスポート・ESD すごろく・出前授業・体験活動　　全校児童　562 名

1 年生 116 名　2 年生 80 名　3 年生 99 名

4 年生 81 名　5 年生 81 名　6 年生 105 名

3　実践計画

月	内容
通年	・実践（出前授業・ゲストティーチャー・校外学習・異学年交流等） ・キャリアパスポートの活用
4 月	・職員への研究目的の周知　・ESD カレンダーの修正 ・各学年　ESD すごろくの掲示　・一年間の目標設定
5 月	・校外学習用キャリアパスポートの検討・作成
7 月	・前期振り返りキャリアパスポートの検討・作成 ・ESD すごろくの振り返り
10 月	・学校行事キャリアパスポートの検討・作成
2 月	・年間の振り返りキャリアパスポートの検討・作成
3 月	・年間の研究の成果・課題検討

4　実践内容

(1)　外部講師による校内現職教育

【資料１　校内現職教育の様子】

年度当初、愛知教育大学から講師を招き、現職教育を行った【資料１】。キャリアパスポートについては、特別活動を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、より自身の変容や成長を自己評価できる工夫について全職員で共通認識を図った。また、キャリア教育で育成すべき力－「基礎的・汎用的能力」を構成する４つの能力－①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力について、短期間で４つの能力全てを身に付けさせようとするのではなく、各学年で一つ重点を置き、各教科で指導するという方法が効果的であるという助言をいただいた。この講義内容の下、各学年の実態を把握し、各教科におけるキャリア教育の効果的な指導の在り方について再検討した。

(2)　キャリアパスポートの活用

年度当初に現職教育部会で、今年度のキャリアパスポートの在り方について、昨年度までの運用実態を振り返りながら、具体的な内容と活用方法を考えた。今年度は以下の５枚に絞り、全学年で統一して取り組んでいくこととした。

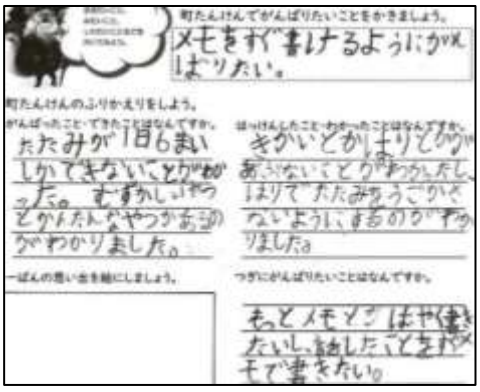
・年度初め　・前期振り返りと学年振り返り　・運動会　・校外学習
・その他の学年行事（低学年）　・出前授業（中・高学年）

前期と学年の振り返り、学年行事・出前授業の２つは、それぞれ１枚の中に随時加筆して自身の変容に気づきやすくする。

また、これまでキャリアパスポートファイルの管理は、担任が一括して保管しておくことがほとんどであったが、今年度は児童各々のロッカーや、普段から目に入る場所で保管し、キャリアパスポートを手に取って見やすくなるような環境づくりをした。

①　第１学年　年度初めキャリアパスポート

年度当初、キャリアパスポートを「自分が学んだことや体験したことを記録したり振り返ったりするためのもの」、「担任や家族もキャリアパスポートを見ながら成長を応援していくためのもの」であることを伝えた。これから先、何年も自己の記録を積んでいくものだと知ると、「上手な字で書きたい」「家に持って帰って家族に見せたい」などと呟き、大事に使っていきたいという思いをもつことができた。



【資料２　第２学年町探検キャリアパスポート】

１年生においては、時間をとり、自己を見つめ直す活動を経験したことがない児童がほとんどであり、思いを文で表すことも難しい。初めて取り組む「年度初めキャリアパスポート」は、キャリア教育の目標として教師が児童に身に付けてほしい力の項目を提示し、頑張りたいことに丸をつけながら児童と一年間の目標を確認した。自分の好きなことを発見するだけで期待に満ちた様子が見られた。また、日常のワークシートや作文、学習の振り返り等を綴じるファイルを作成した。これをもとに改めて日々の活動を振り返ることで、キャリアパスポートに自己の変化を具体的に捉えられるよう

にした。

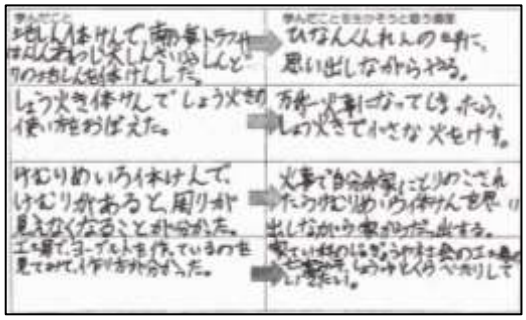
② 第２学年　学年行事（町探検）キャリアパスポート

町探検は年２回行うため、両面にそれぞれの活動の振り返りや感想を１ページにまとめ、比較できるようにした【資料２】。

前期の町探検を始める前にクラスのめあてと個人のめあてを考えさせ、活動の目的意識をもつようにした。活動終了時に振り返りや次に頑張りたいことなどを記入する枠を設け、後期の活動時に前期の振り返りを見返し自分の考えを深められるようにした。

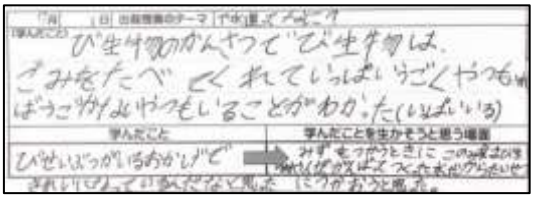
③ 第３学年　校外学習キャリアパスポート

校外学習のしおりに記載した全体のめあてをもとに個人のめあてを考えさせ、目的意識をもって取り組むことができるようにした。校外学習後の振り返りでは、学びを今後の学習や生活に生かそうと思う場面についても考えることができた【資料３】。



【資料３　第３学年校外学習キャリアパスポート】

校外学習での学びを一回きりで終わらせるのではなく、様々な場面で思い出し、自分の学習や生活とつなげていくことを目的としている。今後、教科の学習や生活にどのように生かすことができたかを振り返らせることで、自己理解を促していく。



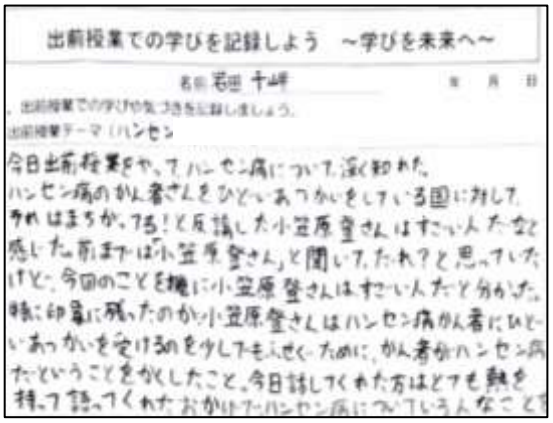
【資料４　第４学年出前授業キャリアパスポート】

④ 第４・５・６学年　出前授業キャリアパスポート

高学年では、外部の講師を活用した出前授業を意図的に取り入れながら総合的な学習の時間の授業を行っている。そこで、出前授業用のキャリアパスポートを作成し、すべての出前授業の振り返りや感想を１枚にまとめていくようにした【資料４】。また、キャリアパスポートには以下の内容を中心に記入するよう指導した【資料５】。

・　出前授業から学んだこと。
・　特に印象に残ったこと。
・　出前授業をしている人の表情や語りから感じる活動に対する思い。

指導したポイントを意識しながら繰り返し記入をさせたことで、出前授業を通して、内容的な学びだけでなく、出会った「人の姿のよさ」に気づくことができるようになってきた。また、キャリアパスポートの記録を社会科・理科などの教科学習でも見返し、適宜出前授業で学んだことを振り返らせている。出前授業用のキャリアパスポートの最後には、自分がこれまでの出前授業を通して学んだこと・気づいたことを記入する枠を設けている。すべての出前授業を終えた後に、これまで書いてきたものを振り返る時間を設定し、自分の出会った大人たちがどのような姿・思いで活動をしていたかを考えるきっかけとする。また、後期の総合学習発表会の前にそれまでの出前授業の内容を振り返り、学年のテー



【資料５　第６学年出前授業キャリアパスポート】

マに合わせて考えを深めていく。それらが自分の今後のキャリアの参考となるように声がけを工夫していく。

(3)　ESD カレンダー・ESD すごろくの活用

①　ESD カレンダー

全職員が教科横断的に一年間の見通しをもって教育活動にあたれるよう、学習活動のつながりを示した「ESD カレンダー」を作成している。今年度は、より教科横断的な視点となるようこれまでの ESD カレンダーを年度当初に各学年の担任で見直し、教育課程を組み立てた。また、作成した ESD カレンダーを職員室前に掲示することで、日頃から全職員の目に入るようにし、カレンダーの内容を共有できるようにした。【資料６】

【資料６　職員室前掲示板のＥＳＤカレンダー】

②　ESD すごろく

ア　低・中学年

職員用として作成した ESD カレンダーをもとに、児童が一年間の見通しをもつことができるよう「ESD すごろく」を作成し、各学年掲示板に掲示している。これまで、生活科や学校行事等の活動を中心としてポイントとなるマスを作成し、マスの活動の様子がわかる写真やワークシート等をその都度貼ることですごろくを進めていた。今年度は新たに、国語科、道徳科等、その他関連する教科の単元名や学習活動を併記し、学校生活の様々な要素や、活動に関するイラストを取り入れることで、初めて学校生活を送る１年生にとってもイメージを掴んだり見通しをもったりしやすい掲示にした。

【資料７　第１学年 ESD すごろく】

また、ポイントとなるマス同士のつなぎには、マスに関する写真や記録だけでなく、各マスに関する活動に至るまでに他の教科等も含め学習してきたことや、日常の児童の呟き等を拾い、記した【資料７】。そして、キャリアパスポートを有効的に活用するために、年度初めのキャリアパスポートで提示した、キャリア教育の目標として教師が児童に身に付けてほしい力の項目を学年掲示板の ESD すごろくの近くにも掲示した。校外学習のマスにはキャリアパスポートの一部を掲示することで、キャリアパスポートと教科、行事をつないでいく柱としての役割ももたせた。

【資料８　第６学年 ESD すごろく】

イ　高学年

発達段階が上がった高学年では、ESD すごろくを「見通しをもつためのもの」だけでなく、「先の活動をよりよくするための考える場」としての機能をもたせた。出前授業前には、国語科の単元を教師がいくつか提示し、出前授業に向けて身に付けたい力や学習計画を児童自身が考えて掲示した【資料８】。次の活動までにどの教科のどのような学習に取り組めるとよいかを ESD すごろくを見ながら考えさせたり、活動の取り組み方を自分たちで目標を設定して掲示したりして共通理解を図ることで、教科学習や出前授業で児童が主体的に活動に取り組む姿が見られた。

5　成果と課題

(1)　成果

仮説１について

・　獲得してほしい力をキャリアパスポートや学年掲示板で示したり、日頃の学習活動の中で教師が意識的に繰り返し言葉がけしたりすることで、次第に児童から「初めてでどきどきするけどやってみよう」「他の人の作品も見てみたい」などの声が挙がり、いろいろなものの見方や捉え方があることに気づき、行動につなげようとする意識が高まった。

・　出前授業、学年行事等の振り返り用パスポートを一枚にまとめたことで、過去に記入したものを見返す機会が増え、次の学習でのポイントや自分の目標がより明確になった。

・　キャリアパスポートを見る機会が増えたことによって、年度当初に自分が立てた目標を大切に日々の学習に取り組む姿や、出前授業の中で出会った人々の考えに触れ、理解しようとする姿が見られた。そして、過去を振り返り、自己を見つめようとする姿が見られた。

仮説２について

・　年度当初に ESD カレンダーを見直し、教科間の新たなつながりを見つけることで、学習活動の幅が広がり、より計画的に教育活動を進めることができた。また、全学年の ESD カレンダーを職員室前に掲示することで、年度途中の見直しで他学年のカレンダーを参考にしやすくなり、「新しいつながりに気づけた」「次年度の学習につなげるために大切にしたいところがわかる」等の声が挙がった。

・　ESD すごろくのマスが写真やワークシート、キャリアパスポートで埋まっていく様子を見られるようにすることは、自然と自分の成長を実感したり学習活動を振り返ったりできる環境づくりとして有効であった。

・　ESD すごろくで先の活動が見通せることや、自分たちで掲示物を作成することで、活動に対する意欲が高まり、多くの児童が主体的に学習に取り組もうとする様子が見られた。また、高学年は活動目標や掲示を自分たちでつくることで、学年で共通意識をもって活動に取り組むことができた。

(2)　課題

仮説１について

・　キャリアパスポートと授業で使うワークシートと内容が重なってしまい、書く負担が増えてしまった。児童が負担を感じないよう、また、普段の学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりできるよう内容をさらに見直していきたい。

・　キャリアパスポートから自己の学びや成長を感じられる児童と難しい児童の差が大きい。キャリアパスポートに取り組む際の言葉がけや内容、指導法をさらに考える必要がある。

・　キャリアパスポートは短期間で自己の変化に気づくことは難しい。長期的に活用していくものとして、児童の発達段階を踏まえた上で、さらに指導内容や方法の一貫性をもたせたい。

・　キャリアパスポートに児童の成長について保護者のコメントをもらうためには、取組について家庭の理解を得て、学校と連携できるようにする工夫が必要である。

仮説２について

・　掲示板が生活動線にない学年は、教師が意図的に ESD すごろくを見せないと内容の変化に気づかないこともあったため、各学年で意図的に見せる機会を増やしたい。また、教員間の共通意識をもたせるため、ESD カレンダーに学校や学年として目指す子どもの姿を明記する等の工夫を考えていきたい。